

# 平成30(2018)年度 事業報告

社会福祉法人おおつ福祉会

## 1. 情勢報告

2019年4月1日滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例が施行された。

その前文には、

「全ての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。障害の有無にかかわらず、一人ひとりが基本的人権を享有し、相互に人格と個性を尊重し合いながら共に生きる社会を実現することは、私たち県民に課せられた責務である。

滋賀でそのような社会の実現を目指した先人は、福祉の実践の中で障害者の放つ命の輝きに社会を変えていく力があることを見だし、「この子らを世の光に」の言葉に代表される福祉の思想を遺した。この思想は時を経て滋賀の各地に広がり、更なる福祉の実践を生み出してきた。

一方で、滋賀ではかつて深刻な障害者虐待事案が発生し、その教訓を踏まえ障害者の権利利益の擁護に取り組んできたが、依然として人権侵害や生活上の制約を受けている障害者が存在する。

(中略)

私たちは、改めて障害を理由とする差別の解消を誓うとともに、先人の思想を道しるべとし、障害の有無にかかわらず、一人ひとりに社会を変革する命の輝きがあることを信じて、滋賀の地に県民の共感と連帯、そして協働による共生社会を実現することを決意し、ここに滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例を制定する。」

と記されている。この理念を具体化するためにも、障害のある人が、地域で生き生きと働き暮らす日々の営みひとつひとつが大きな意味を持っていることは言うまでもない。

また2018年報酬改定は、成果主義がさらに強化される内容となり、中でも就労継続B型は、利用者工賃によりランク付されることになり、重度の利用者を受け止める事業所ほど不利な仕組みになっている。

報酬に占める種々の加算の割合も増え、内容も複雑化、加算条件も詳細になっているため、業務負担も増大し、加算が果たして利用者支援の向上につながっているのかという疑問も生じている。

## 2. 法人の重点課題の概要

- (1) 人材確保については、雇用情勢の深刻化を踏まえ、3回の採用試験を実施し、正規職員を5人、年度途中も含め契約職員を5人採用した。また、1人の契約職員が正規職員へ転換した。福祉の職場フェア、試験毎の大学、専門学校への案内、若者応援企業宣言なども引き続き実施したが、応募者の減少から募集者数は確保できなかった。
- (2) 新任・中堅研修については、職員のニーズに合わせた内容とし、後述のように計画的に進められた。
- (3) 学生実習を3事業所で、延べ50人受けとめた。社会福祉士・介護福祉士の資格を2人が取得した。
- (4) ショートステイむくの木に移転については、移転先の検討を進めたが、年度内に決定することができなかった。
- (5) なんぶでいセンターについては、新たな事業所立ち上げまでの間、一時おおぎの里に統合することとした。
- (6) グループホームについては国庫補助により、苗鹿荘にスプリンクラーを設置した。
- (7) きょうされん国会請願署名6102筆(4月23日現在)を国会に提出した。
- (8) 未収金について、個々のケースの事情に応じた取り組みを、大津市等の関係機関と連携をとって進めた。
- (9) 芸術活動については、事業所合同での造形活動を取り組み、合同作品展を浜大津のギャラリーQで実施した。また作品がぴかつ to アート展、きょうされんカレンダーコンクール等に入選した。

## 3 組織的な課題等

昨年に引き続き、施設長会議に理事長も出席し、業務を執行した。

苦情委員会において、苦情として取り上げられたのは25件で、第三者委員に申し立てられたもの

はなかった。

#### 4 他の組織との連携

- (1) きょうされん滋賀支部へ副理事長・事務局長、常任理事を派遣し、大津ブロックとしても副ブロック長を担った。滋賀支部として県との交渉及び大津ブロックとして大津市との交渉を行った。
- (2) 大津市福祉施設協議会の事務局、OSKの副会長、滋賀セルフ協の副会長等の役割を担い、活動を支えた。
- (3) おおつ福祉会後援会との連携を深めた。事務局を担い、運営委員に法人役員を派遣した。地域のまつり等のイベントの参加をすすめた。後援会から法人に3,000千円の寄附を頂いた。寄附金については、車両購入費とした。
- (4) 家族会連合会との懇談会を1回開催した。家族会連合会と法人の合同で、大津市に要望の申し入れを行った。家族会連合会から法人に1,000千円の寄附を頂いた。寄附金については、車両購入費とした。

#### 5 財政運営

- (1) 資金収支計算書の当期資金収支差額が▲28,446千円であった。
- (2) 予算通り、修繕積立金を積み立てた。(積立額1,000千円)

#### 6 事業量

各事業の事業量は次のとおり

事業種別	事業所名 ( )内定員	事業量		
		H28年度実績	H29年度実績	H30年度実績
障害福祉サービス事業 (日中活動)	①唐崎やよい作業所(生活介護34人)	8,035人/年	8,218人/年	7,669人/年
	②社会就労センターこだま(就労継続B40人)	9093人/年	8,857人/年	7,785人/年
	③社会就労センターあおぞら (生活介護30人) (就労継続B10人)	7,469人/年 1,489人/年	7,845人/年 1,404人/年	7,376人/年 -人/年
	④多機能型事業所ふうね(就労継続B20人) (就労移行6人)	4,819人/年	4,353人/年	5,964人/年 150人/年
	⑤おおぎの里 (生活介護15人) (就労継続B15人)	2,962人/年 2,641人/年	2,812人/年 2,336人/年	2,541人/年 1,926人/年
	⑥なんぶでいセンター(生活介護13人)	1,243人/年	1,210人/年	1,011人/年
	⑦「伊香立の杜」木輝 (生活介護40人) (生活訓練10人)	9,974人/年 234人/年	9,952人/年 休止	10,781人/年 休止
グループホーム・ケアホーム	①南志賀ひまわりホーム(共同生活援助49人)	15,012人/年	15,037人/年	13,261人/年
	②伊香立の杜ケアホーム(共同生活援助38人)	9,689人/年	9,550人/年	12,231人/年
ショートステイ	①ショートステイむくの木(短期入所10人)	2,613人/年	2,822人/年	2,620人/年
	②伊香立の杜ショートステイ(短期入所12人)	3,289人/年	3,589人/年	2,816人/年
ホームヘルプ等	①おおつ福祉会ホームヘルプセンター	16,729時間	15,909時間	14,779時間
	②日中一時支援事業	1,788回	1,187回	926回
相談支援事業	①相談支援事業所ひびき	3,525件	4,495件	5,598件

## 7 理事会・評議員会の開催と出席状況、監査の状況

### (1) 理事会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/理事総数	出席/ 監事総数
平成30年 5月29日(火)	社会就労センターこだま	7/7	2/2
8月29日(水)	コープ膳所	7/7	2/2
10月24日(水)	コープ膳所	6/7	-/2
11月28日(水)	コープ膳所	7/7	2/2
平成31年 3月13日(水)	社会就労センターこだま	7/7	1/2

### (2) 評議員会の開催日及び出席状況

開催年月日	場所	出席/ 評議員総数
平成30年 6月17日(日)	社会就労センターこだま	6/8
平成31年 3月24日(日)	社会就労センターこだま	7/8

### (3) 監事による監査の実施状況

実施年月日	場所	担当した監事
平成30年 5月11～17日(木)	「伊香立の杜」木輝	馬場監事・渡邊監事

## 8 研究・研修部

### (1) 新任・中堅研修

- ①新任研修 2018年6月15日(金) 於：伊香立の杜「木輝」  
「この子と歩む」 講師 勝 きみ子氏(伊香立の杜「木輝」利用者家族)
- ②新任・中堅研修 2018年6月16日(土) 於：勤労福祉センター
- i) 「安全運転講習」 岡武和暁氏 (岡武保険事務所)
- ii) 講演 「発達保障の視座でおおつ福祉会の実践を語る」  
山田 宗寛氏(社会福祉法人 小鳩会 小鳩の家 施設長)
- iii) グループワーク  
「実践で大切にしていること」  
全6グループ 施設長・主任から「実践で大切にしていること」を発表し、  
その後、グループワーク  
(小森・野口/提中・山田/芦田・柿塚/木村・堀/他谷・水島/三ツ谷・倉田)

### (2) 新任フォローアップ研修 経験年数 1年目～3年目

- ①2018年12月5日(水) 於：伊香立の杜「木輝」
- i) 講義「発達の視点を持った支援について」 講師：小西(ふうね)
- ii) グループワーク

### (3) 中堅研修 「日々の活動について語る」 於：唐崎やよい作業所

- ①日中事業所の活動様子を映像や写真で紹介し大切にしていることを発表する。  
グループワーク
- 第1回 2018年12月9日 発表：野口(ふうね)、沈(やよい)
- 第2回 2019年1月16日 発表：東野(こだま)、前山(あおぞら)
- 第3回 2019年1月30日 発表：栗本(おおぎ)、小林(伊香立)

### (4) 研究集会 2019年3月2日(土) 於：県人権センター光荘

- ①実践報告会 各事業所の歴史を振り返り、支援・活動の目的・ねらいについて報告する  
・レポート作成・報告者  
大江(やよい)、松本(あおぞら)、鏑田(伊香立)、田中(おおぎ)、岩本(こだま)、提中(ふうねB型)、小西(ふうね移行)、芦田(ヘルプ)、松浦(ショート)、

森本（むくの木）、西脇（ケアホーム）

・事業報告：倉田（ひびき）、小森（なんぶ）、柴田（グループホーム）

②分科会に分かれてグループワーク

分科会①「生活介護①」 分科会②「生活介護②」

分科会③「B型・就労移行」 分科会④「B型」

分科会⑤「居宅居住・重度」 分科会⑥「居宅居住・軽度」

(5) ①救急・救命講習会

於：「伊香立の杜」木輝

②人権研修

於：各事業所

(6) 外部研修 対象1・2年目 各事業所から参加

2019年1月11日・2月15日「自閉症いろいろなハナシ」

2月1日・3月14日「自閉症そもそものハナシ」

於：「伊香立の杜」木輝・北大津養護学校社会福祉法人 しが夢翔会 小崎 太陽氏

## 9 会議報告

(1) 事業企画部 開催回数 12回、きのこプロジェクト 1回

①第3期中期計画の実行に向けて（コールセンター）

② むくの木の移転に関わって →グループホームとの併設、規模の見直し等  
なんぶでいセンターの北部地域への移行に向けて、目的、活動方針等の検討

③きのこプロジェクト起ち上げ 行動障害の人のための住まいの検討

(2) 居宅会議 5回開催

年間を通して経験年数を問わず職員の参加を勧めてきたことで、世代を問わず交流の場となった。また、居宅事業所特有の課題や悩みを共有することもできた。自然災害に対する対応については居宅事業所単独では限界があり、法人としての連携が必要になってくるため継続的に議論を進め、次年度への課題としていきたい。

(3) 給食部会 開催回数 年 4回

①事業所の状況報告 及び 確認 2018年5月23日

異物混入、食管運搬に関するルート変更等

②事業所の状況報告 及び 確認 2018年8月1日

食中毒警報への対応、メニューへの要望（外国の献立）等

③嗜好調査の実施日の確認、各事業所の状況報告 及び 確認 2019年1月24日

胃腸風邪、インフルエンザの流行等

④各事業所の状況報告 及び 確認 2019年3月12日

嗜好調査結果より、ノロウイルス対策等

(4) 広報会議

2018年度リーチ51号・52号・53号の3刊を発行した。

6月発行の51号では、4月に開所した「多機能型事業所ふうね」と「山百合ホーム」の紹介・ぴかっtoアート展大賞受賞の報告など、11月発行の52号では、きょうされん全国大会 in 京都に参加した利用者のレポートや法人交流会の様子を、3月発行の53号では、第33回こだままつりの様子・法人合同作品展・ぴかっtoアート展入選作品などをそれぞれ掲載した。また、利用者2人を毎号紹介する企画「この人にクローズアップ」を継続した。

(5) 美術会議 5回開催

・合同絵画活動（年13回）

参加事業所 A (おおぎ やよい こだま) B (おおぎ あおぞら なんぶでい 木輝)

1 回 3 事業所～ 4 事業で 1 事業所 3～ 5 人

- ・おおつ福祉会合同作品展 (2018.10.12～ 10.17) ギャラリー Q にて  
「わたしの表現」をテーマに法人 6 事業合同で作品展を開催し、ジャズフェスティバル期間には、展示場所内でのコンサートも行われ、日頃見ていただくことがない客層の方にも来場してもらうことができた。また、作品の販売もあわせて行った。
- ・作品を各美術展に応募し、ぴかつtoアート展やグッズデザインコンクールで入選・入賞した。また ing 展に 2 事業所が出展した。

## 10 各事業所の報告

### (1) 唐崎やよい作業所

#### 1. 利用実績 (定員34人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数 (日)	21	22	22	21	22	18	23	22	20	19	19	20	249
契約者数 (人)	38	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	445
利用者延出勤数 (人)	681	698	666	638	642	550	700	678	621	569	595	631	7,669
対定員利用率 (%)	95.6	93.5	89.1	89.4	85.9	90.0	89.7	90.9	91.5	88.2	92.4	92.9	90.6

4月はじめに伊香立の杜「木輝」へ移行し、契約者は37人となった。

#### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 長期欠席者には、行事の際に誘いかけをおこない、定期的におたよりを届けた。1人の方は本人より退所希望がでてたが、相談も含め引き継ぐ支援機関が確定しておらず、障害福祉課に事情を説明し保留にしている。
- (2) 利用者の日中活動を充実させるために仕事 (手織り・陶芸・リサイクル)、文化的活動 (音楽・造形・絵画等)、身体を動かす活動 (散歩・体操等)、毎週 1 回の定期的なレクリエーション (誕生日会、合同造形、カラオケ、グループ活動、季節行事等)、一泊旅行を実施した。しかし、身体を動かす活動においては、夏の猛暑及び職員不足等で、室内活動や全体活動に変更せざるをえなかった。
- (3) 特殊建築物報告に伴い点検した結果、大きな修繕はなかったが、利用者状況により建具の破損が多く、修理が多かった。また、台風による被害で、陶芸窯のトタン小屋と物置を撤去した。
- (4) 利用者の発達検査及び検討会議を 2 回実施した。また、各自の研修計画に基づき、外部研修に職員全員受講した。
- (5) やよい通信を 9 月と 3 月に近隣地域へ配布し、その中で缶・古紙回収についても案内をおこなった。定期的な缶・古紙回収には、近隣の商店に協力を得た。不定期な缶・古紙回収には、市内の学校数校に協力を得た。物品販売の他、署名、こだままつりの広告・協力金について、近隣の企業、商店、学校、医院へ働きかけをおこない、多くの協力を得ることができた。また、近隣のスーパーの協力を得て街頭署名を 1 回おこなった。年間通して、大学の「介護体験実習生」や「保育実習生」を受け入れた。

#### 3. 苦情・事故等

苦情 1 件 事故 2 件

### (2) 社会就労センターこだま

#### 1. 利用実績 (定員40人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数 (日)	21	22	21	21	19	19	23	22	20	19	19	21	247
契約者数 (人)	47	47	47	47	46	46	46	46	46	46	45	46	555
利用者延出勤数 (人)	681	720	698	650	648	591	732	691	593	558	577	646	7,785

対定員利用率 (%)	81.3	82.0	83.3	77.5	85.5	78.0	79.8	78.8	74.3	73.5	76.0	77.0	79.0
------------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

契約者47人でスタートしたが、長期欠席となっていた利用者が年度途中で2人、別事業所へ移行し退所となった。3月には1人と新規利用契約をする事ができた。7月・9月には、自然災害(台風、自身)の影響で公共交通機関の遅延や運休があり、閉所や開所時間を変更する等の対応が必要となった。

## 2. 重点課題に対する取り組み

(1) こだまの現状を踏まえ、事業形態について職員で議論をする場を設けた。(3回)

また、長期欠席者や高齢利用者の処遇については、関係機関と連携しながら訪問や他事業所の併用、移行を進めた。長期欠席、高齢利用者の処遇に関しては、引き続きの課題となっている。

(2) 専門家による利用者の発達検査やケースカンファレンスを実施する事ができ、利用者理解や実践内容を職員全体で共有し検討する機会となった。(5回)

(3) 利用者の一般就労による退所、直B問題等の理由から利用者増が見込みにくい現状にある。その事から、におの浜ふれあいスポーツセンターの清掃業務を担う事が難しくなっていた。段階的に減らし、年度末でOSKとの契約を終了し他事業所へ引き継ぐ事になった。

(4) 一般就労に向けての取り組みとして事業所の実習を進めたが就労には結びつかなかった。就労後の利用者に関しては、必要に応じて電話や訪問を行い本人の様子を確認する事ができた。

(5) 今年度は、始めて1泊旅行ではなく日帰り旅行を実施した。1泊旅行では参加が難しくても日帰りだと参加できる利用者がある反面、一泊旅行の希望も出ている。

(6) 「ぜぜこだまわっしょい夏まつり」を開催し、法人内事業所の来場だけでなく、地域からも多くのボランティアや来場者があり地域交流の機会となった。猛暑による熱中症や体調不良も懸念されたので、室内での開催を主とながら外にはミスト、多めの水分準備等の対策をしていたがボランティアの1人から体調不良の訴えがあった。

社協を通しての介護等体験や職場体験など積極的に受ける事ができた。

(7) 美術活動や表現活動にも積極的に取り組み法人内の合同作品展にも出品する事ができた。

## 3. 苦情・事故等

苦情2件 事故1件

### (3) 社会就労センターあおぞら

#### 1. 利用実績 (定員40人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	20	21	21	21	20	19	22	21	19	18	18	19	239
契約者数(人)	36	36	36	36	36	36	35	35	35	35	35	35	426
利用者延出動数(人)	650	657	665	660	611	556	670	625	584	568	533	597	7,376
対定員利用率 (%)	108.3	104.3	105.7	105.0	102.0	97.7	101.7	99.3	102.7	105.3	99.0	105.0	102.8

・2017年度に比べ開所日数が13日減となった。理由は、人員不足により土曜開所を取りやめたこと、台風のため8月に半日・9月に1日閉所したこと、また人員不足による影響で2月と3月に1日ずつ閉所日を設けたことによる。

#### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 就労継続支援事業B型を廃止し、B型事業利用者6人を他事業所に移行した。生活介護事業では2人を他事業所に移行し、山百合ホームの利用者1人を受け入れた。また、前年度より長欠となっていた利用者1人が年度途中で県外の入所施設に移行となった。契約者数は36人。

(2) 製作を中心とした陶芸・ビーズ・手織り・美術、仕事の位置づけの古紙・アルミ缶のリサイクル、体を動かすことを目的としたスポーツ・体操・散歩などの活動を行った。また、新しい活動

として、“リクレーション”、“畑”、“おそうじ隊”を作った。”リクレーション”では仲間同士の交流、“畑”では収穫する楽しみ、“おそうじ隊”では人と協力することをそれぞれの目的とした。熱中症対策や一人一人の障害特性など職員会議で話し合い安全な活動に配慮した。季節の行事では、日帰り旅行・花見・クリスマス会・年度末のお疲れ様会などを開催し、行楽や交流に努めた。

- (3) あおぞらこまつりで多くの人を迎えることができ地域との交流をはかることができた。きょうされん国会請願署名・募金では今年も自治会の協力を得ることができた。また、美術活動では法人合同作品展やing展での展示販売を行ったり、ぴかつtoアート展で応募した作品が佳作として入賞するなど、作品の紹介に努めた。
- (4) 不調だった空調の更新工事を行った。旧北大津共同作業所物件を解約し業務の縮小を計った。新たに物置を購入し災害時の避難物資をストックするスペースを確保した。
- (5) 4人の発達検査を実施し、そのうち2人に関してケースカンファレンスを行った。人権研修会を実施し虐待防止に努めた。意思決定支援の外部研修に多くの職員が参加し、権利擁護の意識を高めることに努めた。

### 3. 苦情・事故等

苦情 1 件、事故 3 件（うち車両事故 2 件）

## (4) 多機能型事業所ふうね

### ○就労継続支援B型（あこーる）

#### 1. 利用実績（定員30人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	22	22	22	22	19	23	22	21	20	21	22	258
契約者数（人）	27	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	313
利用者延出勤数（人）	516	512	512	517	513	440	534	507	483	456	469	505	5,964
対定員利用率（%）	78.3	77.7	77.7	78.3	78.0	77.3	77.7	77.0	76.7	76.0	74.7	76.7	77.3

#### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 今年度は、26人の契約をおこなった。
- (2) 工賃目標については、年額一人平均13万円（交通費補助含む）となり目標達成できなかった。（箱折り＝福見印刷、名倉紙工）が全体の69%と占める割合が多かった。
- (3) 自主製品（こんにゃく製造）の占める割合は、全体の15.5%だった。販路拡大については、あおぞらからの販路先にプラスしてJ Aグリーンプラザ石山店、おごと温泉協会、浜大津湖の家（アークス）等の販路拡大をおこなった。
- (4) 一般企業への就労者は出せなかった。
- (5) 利用者が主体となる取り組みとして、利用者自治会運営の支援をおこなった。一泊旅行（香川・徳島方面）の実施や、七夕（流しそうめん）、おつかれ様会（ミシガンクルーズと食事会）等の企画。学習会については、焦点を絞った学習が開催できなかった。
- (6) 職員の研修として年間研修計画を元に研修をおこなった。（人間発達講座、きょうされん研究集会等）

#### 3. 家族・地域・他団体との連携について

昨年度に引き続き、次の住まいの場への展望として「体験ホーム」利用にむけて家族や本人に説明し勧めてきた。新たに3人と契約することとなった。

署名活動では、がんばるディで、他事業所と協力して、堅田駅前に街頭署名活動をおこなった。北大津養護学校PTAや、おおつ福祉会家族会に事業所の説明会をおこなった。

#### 4. 苦情・事故等

苦情 0件、事故 4件

#### ○就労移行事業（ころ一れ）

##### 1. 利用実績（定員6人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	22	22	22	22	22	18	22	21	19	18	19	20	247
契約者数（人）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
利用者延出勤数（人）	11	13	14	12	13	12	13	14	12	10	12	14	150
対定員利用率（％）	8.3	10.0	11.7	10.0	10.0	11.7	10.0	11.7	11.7	10.0	11.7	11.7	10.1

##### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1)今年度は、1人の契約をおこなった。体験受入れ回数は、5人でのべ26回だった。  
そのうち、次年度契約予定1人。
- (2)就職に向けての支援は、丁寧に障害状況、障害理解・受容の状況を把握してきた。そのうえで本人の体調面を考慮しながら、より職場に近い環境で、施設内メンテナンス、OA事務、下請け作業（DM）を実施した。
- (3)社会的な知識を学び、暮らしについて考える機会として、生活全般に関することとして、基本的なこと金銭管理や運動として体力づくりをおこなった。
- (4)生活や仕事に関する相談支援については、自己理解として、得意、不得意なことや、生活健康面で一緒に整理し考えてきた。
- (5)就職活動に向けて、本人が興味関心を示せるよう仕事内容を調べたり、職安に行く体験をおこなった。
- (6)職員の研修として年間研修計画を元に研修をおこなった。

##### 3. 家族・地域・他団体との連携について

北大津養護学校PTAやおおつ福祉会家族会に事業所の説明会をおこなった。大津市社会福祉協議会（志賀・北部）ブロックに参加した。

#### 4. 苦情・事故等

苦情 0件、事故 0件

#### （5）障害者福祉サービス事業所おおぎの里

##### 1. 利用実績

##### ○生活介護（定員15人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	22	22	21	22	18	23	22	21	20	20	21	253
契約者数（人）	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	17	17	155
利用者延出勤数（人）	244	236	219	215	235	201	257	238	209	218	231	238	2,541
対定員利用率（％）	79.0	72.0	66.7	68.7	71.3	74.7	74.7	72.7	66.7	72.7	77.3	76.0	72.7

・伊香立の杜ケアホーム入居に伴い、日中事業所を移行したため、契約者数が15人になった。あわせて、1月に事業所内のB型から移行したため、契約者数が16人になった。2、3月については、一時的に他事業所の利用者を受け入れたため、契約者数が17人になっている。

##### ○就労継続支援B型（定員15人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数（日）	21	22	22	21	22	18	23	22	21	20	20	21	253
契約者数（人）	13	13	13	13	13	13	13	12	12	11	11	11	148

利用者延出勤数(人)	181	180	182	179	180	148	178	159	156	130	127	126	1,926
対定員利用率(%)	58.0	54.7	55.3	57.3	54.7	55.3	52.0	48.7	50.0	43.3	42.7	40.0	51.3

・事業所内の生活介護と併用利用していた利用者が1人、生活介護に全面的に移行し、1月からもさらに1人生活介護に移行したため、契約者数が11人になった。

## 2. 重点課題に対する取り組み

(1)事業所内での移行があったため、生活介護の契約者数が増えている。一方で、就労継続支援B型の契約者数が減少傾向であった。長期欠席の利用者には、月に1～2回の家庭訪問を実施することが出来た。

(2)就労継続支援B型は、メンテナンス作業及び下請け作業を中心に取り組むことが出来た。人参の型抜き作業は、不定期であることや箱折りの発注が増えたことから中止することになった。生活介護は、散歩や古紙回収、刺し子などの活動を安定して取り組むことが出来た。また、ストレッチ教室や合同美術など活動も定期的に取り組むことが出来た。

(3)人権研修の実施が出来なかった。外部研修の参加も少なく、職員会議での定期的な学習会を実施することも後半は出来なかったため、課題が残る。

(4)地域交流のため、おおぎの里フェスタの実行委員会から参加し、地域とのつながりを持つことが出来た。

## 3. 苦情、事故等

苦情 2件、事故 2件

### (6) なんぶでいセンター

#### 1. 利用実績(定員13人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	20	21	21	20	20	17	22	21	19	18	19	20	238
契約者数(人)	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	89
利用者延出勤数(人)	94	100	99	94	85	68	82	92	77	67	76	77	1,011
対定員利用率(%)	38.2	36.9	36.9	36.2	33.1	30.8	29.2	30.8	31.5	29.2	30.8	30.0	33.1

今年度は契約者数8人でスタート(昨年からの増減は、年度末に2人退所、1人契約)。のうち他事業所との併用は6人で、社会就労センターこだま2人、ふうね1人、他法人の生活介護及び日中一時事業所1人、介護保険デイサービス2人。年度途中の8月に1人が介護保険に移行したため、9月からは利用者7人(50代～70代)での活動になった。また、職員配置では10月より産休入りにとまなう所長の交代があった。年度末で事業所を休止。

## 2. 重点課題に対する取り組み

(1)契約者数は新規1名の8人でスタートしたが年度途中で体調悪化による介護保険事業への移行者があり最終7人に留まった。

(2)高齢期の知的障害のある人の通所先として、健康管理に気を配りながら、散歩や刺し子、レクレーションなどゆったりとした活動を行った。

(3)職員研修は法人内研修を中心に、外部研修(きょうされん主催造形活動に関する研修)に1人が参加した。

(4)移転の場所探しについては、堅田を候補地として2019年度の移転を目指して事業企画部や高齢者会議で検討を重ねてきたが、年度末で一旦事業所は休止し、おおぎの里に事業を移行することになった。

## 3. 家族・地域・他団体との連携

自治会に加入し、こだままつりへの協賛や署名のお願いの他、なんぶでい通信の回覧及び配布、

散歩時の交流など日常的なつきあいを含めて地域の方々と関係をもつことができた。

自治会は年度末の休止に伴い退会。

#### 4. 苦情・事故等

苦情1件、事故総数0件

### (7) 「伊香立の杜」木輝

#### 1. 利用実績

生活介護（定員40人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	20	21	21	22	21	18	23	21	20	18	19	20	244
契約者数(人)	48	48	48	48	47	47	47	47	47	47	47	47	568
利用者延出動数(人)	896	954	921	871	925	719	942	957	909	828	871	888	10,781
対定員利用率(%)	112.0	113.6	109.6	110.3	110.1	99.9	102.4	113.9	113.6	115.0	114.6	111.0	110.5

・4月に山百合ホーム開所したことにより、5月にかけて6人の利用者を受け入れた。また、養護学校より3人の利用者の受け入れをした。

4月中旬に1人の利用者が他の事業所を利用することになり、47人となる。

・集団による胃腸風邪、結膜炎が蔓延し（2ホーム）、利用者の長期の休みが続いた。

#### 2. 重点課題に対する取り組み

(1) 今年度より、活動班を1班増やし5班でスタートしたが、個別対応の必要な利用者も増えたことや、職員不足が恒常的になり、見守りが不十分な場面も多く、細かい事故報告が増えた一年となった（主に他害、他傷）。

(2) 職員研修はきょうされん、自立支援協議会等の新任向けのもの、内部研修にとどまる。

(3) 食堂の椅子、及び、利用者向けのベンチの購入を進め、環境整備に努めた。

(4) 建物内の修繕、特に傷みのひどいウッドデッキについては、利用者の活動として位置づけ、取り組んできた。

照明器具について、数年をかけてLED仕様にする事とし、今年度については事務所のみ交換した。

(5) 補助金を利用して購入を検討したが、対応する補助金がなく、車輛の故障も頻回だったため、年度末に10人乗りの車輛を購入した。

(6) 納涼祭は熱中症の心配もあったが、対策（ミストシャワー、時間短縮、ボランティアへの水分提供等）を取り実施をした。他の行事についても開催出来た。

(7) 発達検査及びケースカンファレンスの実施をした。

#### 3. 家族、地域、他団体との連携

(1) イベント開催時に地域の方、家族の協力のもと、実施できた。また、給食で使用する米についても地域から購入をしてきた。

#### 4. 苦情・事故等

苦情 1件、 事故 大津保健所に連絡1件（下痢、嘔吐）

### (8) 伊香立の杜ケアホーム

#### 1. 利用実績（定員48人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用実績(人)	928	1,049	1,008	1,042	1,011	961	1,049	1,046	1,070	1,027	965	1,080	12,131
平均利用人数(人)	30.8	33.8	33.6	33.6	32.6	32.0	33.8	34.5	34.5	33.1	34.5	34.8	33.5

4月1日に山百合ホームが開所し、定員30人から38人となった。4月に8人の利用者を受け入れたため、現員37人となる。

ウイルス性の胃腸炎や結膜炎の集団感染が起きてしまった。そのため、感染予防について職員間で再度確認し衛生管理の徹底を行った。

## 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) 山百合ホームの開所に伴い伊香立の杜ケアホームも含めて円滑な運営が行えるよう職員体制を整えていったが、職員体制に余裕を持たせるには至らなかった。そのため、昨年度一部取り組んでいた土日等の余暇支援を行うことができなかった。
- (2) 滋賀県重症心身障害者等施設整備補助金事業により、ケアホームの2階建て棟1階部分の環境整備（システムキッチン、間仕切りの撤去及び内壁、トイレ、玄関の新設）を行った。その結果、利用者間でのストレスの軽減を図れた。
- (3) 各棟のダイニングテーブル、椅子の新調を予定していたが見送った。各種電化製品が耐用年数を越えたこともあり、その修理や買い替えを優先して行った。
- (4) 毎年恒例のイベント（行事食も含む）を実施することが出来た。（年6回程度）
- (5) 伊香立の杜ショートステイとの合同の避難訓練を実施した（2019年3月）が、避難誘導時における各ホームの職員の連携に課題があった。
- (6) 職員の研修については、外部研修の参加を進めてきたが、職員全員の実施は出来なかった。

## 3. 家族、地域、他団体との連携

イベント（納涼祭、もちつき大会）については、伊香立の杜全体と「守人の会」と共同で取り組みを進めてきた。また、昨年度から引き続き伊香立の「耕楽会」に全面的に協力し、米の購入を行っている。

## 4. 苦情・事故等

苦情1件、事故0件、大津市保健所に連絡1件（ウイルス性胃腸炎）

### (9) 伊香立の杜ショートステイ

#### 1. 利用実績（定員12人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	30	28	31	364
実利用者数(人)	78	84	83	80	77	80	76	85	81	77	78	85	80.3
延べ利用者数(人)	284	235	235	246	255	222	220	228	230	219	212	230	2,816
平均利用者数(人)	9.5	7.6	7.9	8.0	8.3	7.4	7.1	7.6	7.5	7.3	7.6	7.5	7.8
利用率(%)	79.2	63.3	65.8	66.7	69.2	61.7	59.2	63.3	62.5	60.8	63.3	62.5	65.0

#### 2. 重点課題に対する取り組み

- (1) ロングステイ利用者2名が伊香立CHに移ったことにより利用率が下がり、新規の利用者も増えたが、計画の平均利用人数10人には届かなかった。行動障害を呈する方が新棟を利用することにより安定して過ごすことができ、大きな事故もなかった。
- (2) 今年度4月からロング利用者がケアホームに移ることができた。緊急時対応についても、ほぼ受け入れていくことができた。
- (3) 伊香立の杜ケアホームと合同の避難訓練は2019年3月に実施する事が出来た。
- (4) 例年通りのイベント食や、取り組みを、ケアホームと合同で実施することが出来た。
- (5) (4)と同様、「守人の会」と連携し、伊香立の杜全体で取り組みことができ、それぞれが盛況に終わることが出来た。また、地域通信も定期的に発行することが出来た。
- (6) 自立支援協議会やきょうされんの研修には一部参加することは出来たが、体制の厳しさから参加できない職員がいた。

### 3. 苦情・事故等

苦情 5件、事故 1件

#### (10) グループホーム

##### 1. 利用実績 (11ホーム、定員48人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
利用実績(人)	1,155	1,117	1,082	1,128	1,140	1,092	1,136	1,091	1,065	1,072	1,053	1,130	13,261
平均人数(人)	38.5	36.0	36.1	36.4	36.8	36.4	36.6	36.4	34.4	34.6	37.6	36.5	36.3
利用率(%)	85.5	80.1	80.1	80.9	81.7	80.9	81.4	80.8	76.3	76.8	83.6	81.0	80.7

\*ゆうやけホームの実績は除く

体験型ホームとして開所している「ゆうやけホーム」の今年度の延べ利用者数は211人、開所日数は91日間であった。

##### 2 重点課題に対する取り組みの状況

- (1)今年度、利用者4人が退去となった。新たに利用者1人が入居となり、年度末時点でグループホームの空きは6室となった。  
自立生活支援ホームについては今年度2人が退居し、それぞれ2年の期限を経て一人暮らし(2人)へ移行した。また新たに2人の入居があった。年度末時点での空きは1室となった。
- (2)財産管理について、年度途中で金銭事故が発生してしまい、利用者の権利を守ることができなかった。利用者預り金規定については見直しを実施し、これまで以上に徹底した管理が必要となった。成年後見人や天津市社会福祉協議会の権利擁護事業への引継については1人の利用者を成年後見人制度利用につなげることができた。また1人も現在、成年後見人制度利用の手続き中となっている。
- (3)常勤職員による月2回の職員会議、各ホーム単位のキーパー会議を月1回、および全体キーパー会議を年3回開催した。
- (4)65歳以上の利用者が7人となり、介護保険との併用ケースにおいては介護保険のケアマネージャーと連携して生活を支えている。また疾病により今後医療機関との連携が必要となる可能性があるケースもあり、多くのホームで体温及び血圧測定、体重測定などが引き続き必要となっている。
- (5)自立生活支援ホームは一人暮らしへの移行という有期限の生活の中、自立生活に向けてその都度、細かい目標設定を利用者と相談したり、ケース会議を定期的に重ねたりすることで支援を積み重ねてきた結果、2人の利用者を一人暮らしへ移行することができた。
- (6)余暇活動について、ホーム行事は年13回開催することができた。内容は食事会、映画鑑賞会、外出等。
- (7)各ホームの消防訓練を利用者、キーパー、職員を含めて実施した。非常災害時のマニュアルについても各ホームで避難所や避難場所などの再確認を行った。苗鹿荘については国庫補助を利用してパッケージ型自動消火器を設置した。
- (8)老朽化したホームの移転について、建築基準法の課題があるため、行政や関係機関との話し合いの場を持ったが、法律には従ってもらえないとして進展できなかった。
- (9)天津市主催の救命講習にキーパー数名が参加した。自立支援協議会主催の研修会やきょうされん滋賀支部地域生活支援部会主催キーパー学習会、きょうされん近畿北陸ブロックホーム職員研修会等に職員キーパーで参加した。年3回開催した全体キーパー会議では講師を招き、学習会を3回実施した。
- (10)各ホームの人員配置については後半期より体制が足りておらず、かなり厳しい状況が続いた。結果、建築基準法で指摘を受けている風香ホームを来年度中に閉所していくこととなった。
- (11)ホームの事務所の拡張工事は実施できなかった。固定電話の2回線工事は完了した。

(12)各ホームのエアコン老朽化に伴い、計画的に新調を行った。

(13)パソコンを1台購入した。

### 3 地域との関わり

地域の自治会に継続して加入した。一部のホームでびわこ一斉清掃や地域の清掃活動に利用者と一緒に参加した。

### 4 苦情・事故等

事故総数 8件（うち車両事故 2件）、苦情 2件

## (11) ショートステイむくの木

### 1. 利用実績（定員10人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日数(日)	30	30	28	29	30	29	28	29	29	28	28	26	345
利用実績(人)	101	96	96	90	97	97	96	83	92	78	86	78	90.7
延べ利用者数(人)	252	240	233	213	225	208	216	213	241	190	210	180	2,620
平均利用人数(人)	8.4	8.0	8.0	7.3	7.5	7.2	7.7	7.3	8.3	6.8	7.5	6.9	7.8
利用率(%)	84.0	80.0	80.0	73.0	75.0	72.0	77.0	73.0	83.0	68.0	75.0	69.0	78.0

契約者数421人（平成31年3月末現在）

1年の平均利用人数は7.8人。新規契約者は11人。昨年度途中からのロング利用者がグループホームへの入居が決まったことや定期利用者の入院等で7月から利用率が下がった。また、台風、修繕工事、年末年始、職員体制が整わなかった3月等、例年よりも閉所日数が増えた。10月から所長が交代し、兼任所長になったことにより現場の体制が薄くなった。その他、虐待事案の受け止めからロング利用につながるケースや保護者の入院等での緊急利用があった。

### 2. 重点課題に対する取り組み

(1)中軽度の方を中心に利用があったが、目標の8人には届かなかった。

(2)緊急利用やロング利用などは関係機関と連携して利用者のニーズに対応できるよう支援を行った。

(3)移転先については「建て貸し」での物件を検討したが、条件が合わず契約には至らず、新たに土地探しから始めることとなった。環境整備については、建物内の補修や庭木の伐採、壊れた家電の購入など必要に応じてその都度実施した。

(4)職員間の情報共有については、キーパー含めた全員にまで情報が行き届いていないなど交代勤務の難しさや年度後半の所長が兼務で常駐していないこと等で職場環境の改善には至らなかった。職員研修は法人内研修の他、ショートステイ連絡会施設見学（全員）に参加した。

(5)自治会への参加を継続。通信地域版は発行できなかった。

### 3. 苦情・事故等

苦情 3件、事故 1件

## (12) おおつ福祉会ホームヘルプセンター・きたくぶ(日中一時支援事業)

### 1. 実績報告

ホームヘルプ実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	集計	平均
依頼件数	737	701	728	737	749	704	694	689	706	669	659	723	8496	708
実施件数	608	597	606	618	592	555	570	575	554	531	529	594	6929	577

お断り	73	71	73	50	73	52	71	78	96	80	79	74	870	73
キャンセル	56	33	49	69	84	97	53	36	56	58	51	55	697	58
支援時間	1299	1228	1329	1293	1251	1281	1187	1217	1178	1116	1100	1302	14779	1232
利用人数	153	152	156	150	158	157	150	152	150	149	148	156	1831	153

1か月の平均では、依頼件数708件・実施件数577件・断り件数73件・キャンセル件数58件・利用人数153人・利用時間数1232時間となった。

#### 日中一時支援実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	24	24	25	25	23	22	26	25	24	22	23	25	288
利用者数	87	77	87	75	85	72	71	67	71	73	75	86	926
一日平均	3.6	3.2	3.5	3.0	3.7	3.3	2.7	2.7	3.0	3.3	3.3	3.4	3.2

※利用人数、一日平均利用者数はきたくぶと伊香立ロコの合算

年間の利用人数は926人で、一日平均利用者は3.2人となった。大津市北部地域の放課後等児童デイサービスの普及により、日中一時支援の利用希望者は年々減っている。

## 2. 重点課題に対する取り組み

(1)今年度は、職員マイナス1でのスタートとなった。また、年度途中の特定事業所加算の取り消し等もあり、厳しい運営状況となった。

年間の利用時間の目標が18,100時間であったのに対して、実績は14,779時間であった。身体介護の時間は、目標が11,000時間であったのに対して、実績は8,145時間、移動支援の時間は、目標が7,100時間であったのに対して、実績は6,663時間となった。

(2) 日中一時支援の年間事業量の目標を850人としていたが、実績は926人と目標を上回ることができた。1か月あたりの平均は77人(目標70人)1日あたりの平均は3.2人(目標3人)で、目標を上回ることができた。

(3)公用車に関しては、パツソを廃車、新車を2台購入した。

(4) 年間を通して自立支援協議会や社会福祉協議会主催の研修に参加したり、大津市権利擁護サポートセンターより講師を招き虐待防止を目的とした学習会を実施した。

(5)自立支援協議会主催の『大津市ヘルプ事業所協議会』『放課後等支援部会』『北部ネットワーク協議会』『移動支援プロジェクト』などに職員が参加し、情報交換や地域の課題の認識を深めた。

(7)年間45回のケース会議に出席、それぞれのケースで関係機関と緊密にやりとりをし、本人理解を深めた上で支援にあたるよう心がけた。

(8)大津市ヘルプ事業所協議会と連携し防災マニュアルを作成した。

## 3. 苦情、事故等

ヘルプ : 苦情 6件 事故 5件(車両事故、内当て逃げ1件、停車中の追突1件)

日中一時 : 苦情 0件 事故 0件(車両事故)

### (13) 相談支援事業所ひびき

#### 1. 実利用者数

(1)計画・モニタリング件数

	合計件数	身体	知的	精神	発達障害
障害者	551	3	539	6	3
障害児	56	2	54	0	0
合計	607	5	593	6	3

## (2) 支援人数

	実人数	身体	知的	精神	発達障害
障害者	226	4	214	6	2
障害児	40	1	39	0	0
合計	266	5	253	6	2

## (3) 相談件数

	合計件数	身体	知的	精神障害	発達障害
障害者	4,859	68	4667	89	35
障害児	739	32	684	0	23
合計	5,598	100	5351	89	58

2018年度のひびきは、相談支援専門員4人（年度途中で1人増員）、相談員補助2人の6人体制となった。計画相談契約者数は258人（2019年1月末現在）、加えて一般相談のみで関わっているケースもある。

前年度に比べて相談員が増えたことで、利用事業所を訪問して実践現場を見ながらのモニタリング聞き取りができ、支援者間での連携が取りやすくなった面があった。また、今年度から計画相談のモニタリング頻度が、1年に1回から3ヶ月に1回となったことから、これまで受給者証更新の手続きの際の簡単な面談しか持っていなかった利用者・家族とも顔を合わせる機会が増え、日々の悩み事や今後のことなどこれまで以上に話を聞くことができた。

一方で実務量も4倍に増えたため、毎月の計画更新・モニタリング報告書作成に追われる状態が常態化している。

## 2. 重点課題に対する取り組み

今年度、重点的に関わったケースの特徴としては、一人暮らしの人の生活全般に関わる支援調整、65歳となり介護保険との併用、引きこもりの人への対応、家族各々に生きにくさがある家庭への包括的な支援、などが挙げられる。大津市障害福祉課や、すこやか相談所、子ども家庭相談室・後見人・学校・病院など外部機関と連携しながら関わった。

## 3. 苦情・事故等

苦情0件、事故0件